

— 十二月師走 —

文・学習院大学教授 荒川正明さん



彩磁椿文茶碗

板谷波山作 昭和 38 年 (1963)
高さ 7.4cm 口径 14.5cm
筑西市蔵 (神林コレクション)

去る 11 月 9 日、波山の作品をこよなく愛した小説家、瀬戸内寂聴さんが 99 歳で亡くなりました。来年春の生誕 150 年の波山展に寂聴さんをお招きしたいと、波山記念館の板谷駿一理事長が連絡を取っていましたが、それも叶わなくなってしまいました。

私は美術館学芸員時代に、何度か波山展にご案内しました。波山の作品を前にすると、キリッとした真剣な眼差しになられ、食い入るように眺められていた寂聴さん。ある時は、おでこをガラスに勢よくゴツンとぶつけられたことも。そして「波山の作品はなんて色気があるのでしょうか。その上に品格も感じられる。波山は紛れもない天才ね」と。

作品を生んだ人物は消えても、その人の残した作品たちは時代を超え、ますます光り輝いていく。その芸術の素晴らしさを、寂聴さんは卓越した文章力で端的に示してくださいました。

この「彩磁椿文茶碗」は波山が 91 歳、生涯最後の作です。ほんのりとした愛らしい茶碗には、これから咲こうとする小さな蕾も加えられています。最晩年まで瑞々しい感性を決して失うことのなかった波山の芸術は、これからも輝き、私たちの行く手を照らしてくれることでしょう。

【問】しもだて美術館 ☎ 23-1601



文 下館・時の会代表 一木努さん

校へ寄付」してくれた老田繁蔵氏のお孫さん。この子さえもう 60 代後半になりました。波山とのツーショットはうらやましい限り。一枚の写真でさえ一生のプレゼントとなるのですね。
年が明けると、板谷波山生誕 150 年の記念の年。穏やかな日々の中、賑々しく大企画展を開催したいものです。
みなさんにとっても、よい年となりますように。

板谷波山生誕 150 年記念事業
ロゴマーク決定



11 月 10 日、令和 4 年に開催される板谷波山生誕 150 年記念事業の実行委員会 (須藤茂実行委員長) が開催されました。

委員会では、しもだて美術館・板谷波山記念館・廣澤美術館の 3 館で同時開催される記念展示会の内容や、イベントなどについての協議が行われました。

また、記念事業のロゴマークが正式に決定されました。ロゴマークのデザインは、筑波山をイメージした波山の落款が用いられています。

実行委員長である須藤茂市長は「記念すべき年にイベントを行い、波山先生の功績や作品の素晴らしさを広く知っていただきたい」と話しました。

来年のイベントを楽しみにお待ちください。

【問】しもだて美術館 ☎ 23-1601

波山 ニュース

おじいさんの着物の懐から、いきなりネズミが顔を出したのですから孫たちはビックリ。でもそれは、ハンカチのネズミでした。
波山は、こんなお茶目なパフォーマンスで子どもたちを楽しませるのが得意でした。そのネズミを、お孫さんの村田あき子さんに再現していただいたのが下の写真です。
風呂場でも時折、面白い仕掛けが企てられていたようです。飴玉が隠されていたり、扉を開けると波山がお面を付けて湯ぶねに浸かっていたり、ある時は鼻



泣く子も黙る名人芸の思い出とともに、どこにも売っていない、かけがえのない贈り物として残されているのです。
こんなエピソードもあります。波山邸の隣に住む子が、おもちゃ代わりに、彫刻家から石膏でできた兎をもらいました。波山はそのままでは壊れてしまうからと、丁寧に土で型を取り、焼き物にし

実は、隣の子は後に「板谷波山傳」を著す吉澤忠、彫刻家はやがて波山の胸像を作ることになる吉田三郎という豪華メンバー。吉田氏はあの兎となら自分の作品のどれとでも交換するからと吉澤家に頼み込んだそうですが、惜しいことに関東大震災で失われてしまい、写真も残っていません。代わりに子ども大好きな笑顔の波山の写真を一枚紹介します (左ページ上)。
波山に抱かれている少年は、本紙 10 月 1 日号で荒川先生が紹介されたあの事件、「波山作の皿を宿直の先生たちが宴会に使ったことを聞き烈火のごとく怒り狂い、急いで菊皿を保護し大型金庫を学

もうすぐクリスマス。子どもたちへのプレゼントで悩まれているご家庭もあるかもしれません。
波山は子どもたち、というよりお孫さんたちの世代と、どんなふうにつき合っていたのでしょうか。

を剥り貫いた西瓜をかぶって現れたので、泣き叫んでしまったこともあったりと、村田さんは随想に書かれています。器用なうえに何事も本格的なので、子どもの心に深く刻み込まれたのでしょうか。

波山の特技は家庭だけではなく、子どものいるさまざまな場面で發揮されていました。チリ紙で落下傘を作ってもらったという親戚の子もいれば、床屋で居合わせた子どもに折り紙を披露していたという目撃証言もあります。

てあげたのです。



シリーズ
板谷波山

生誕

150 年

「ネズミと犬と兎」

波山検索ファイル
Vol.8

一木努の

1872 ~ 1963